

宮城県小牛田農林高等学校
令和3年1月25日(月)
保健厚生部

宮城県内、そして近隣地域においても新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続いています。一人一人の自覚ある行動が感染の広まりの防止につながり、大切な人を守ることにあります。下記の項目について、生徒の皆さんの御協力をお願いします。

①登校前の検温・体調確認

「発熱」「だるさ」「息苦しさ」「かぜ症状」がある場合は、登校せず自宅で様子を見てください。学校を休む場合は、保護者の方が、電話でその状況をお知らせください。その際、具体的な症状（発熱の有無、頭痛、腹痛、下痢、鼻水、のど痛、咳、吐き気、だるい等）をお話しいただけるとスムーズです。

同居の御家族の中に、かぜ症状がある場合は、登校せず様子を見てください。

②マスクの着用

マスクは家を出る時から着用してください。公共交通機関を利用している人は、乗車マナーの一つとして徹底してください。マスクを着用していても、人との間隔を十分にとり、密集しないよう気をつけましょう。周囲の人と距離が近い時は、会話を控えること。

③手洗い・手指の消毒

こまめな手洗いを励行し、消毒薬を上手に活用しましょう。

外から教室に入る時やトイレの後、食事の前などは、石けんを使った手洗いまたは手指消毒薬による消毒を行いましょう。**『むやみに周囲のものに触らない。触ったら、手洗いするまで眼・鼻・口に触らない！』**を徹底すること。

④換気と衣服の調節

冬季でも可能な限り常時換気に努めています。そのため天候によっては寒さを感じる場合があります。ポロシャツの中に暖かい下着を1枚着たり、タイツを着用するなどして、かぜをひかないよう自分自身で工夫をしましょう。

⑤昼食時の注意

食事をする前に、換気・手洗いを徹底しましょう。食事の際は、自分の席で、できるだけ人との距離を保ち、話をせずに食べましょう。**『飲み物の回し飲み、食べ物の共有をしない。』**ようにしましょう。

昼食時間にマスクを外すのは、食事の際のみとしましょう。**食事中は食べることに集中し、会話は食事の後にマスクを着用した状態で**行いましょう。

⑥感染（疑い含む）した場合の連絡について

本人・生活を共にする御家族が濃厚接触者となった場合や、PCR検査を受けることになった場合は、速やかに学校に御連絡ください。感染者の場合は治療するまで、濃厚接触者の場合は感染者と最後に接触をした日から2週間程度が出席停止の期間となります。

（詳しくは、保健所の指示によります。）

*** 学校外における行動についても、自ら感染症対策を意識して過ごしましょう！**

感染症から生まれる差別・偏見をなくしましょう

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、学校を含めた日常生活にも、一部に制限があったり、新しい工夫が求められたりする状況が続いております。今までとは違う生活形式に変化していく中で、感染症に対する不安や感染者などへの差別・偏見などが社会問題となっているのも事実です。学校でも、感染予防を続けていきますが、新型コロナウイルス感染症には誰もがかかる可能性があることを前提に、身近な誰かが感染してしまったことを考慮した対応も必要となってきています。

3つの“感染症”とは？

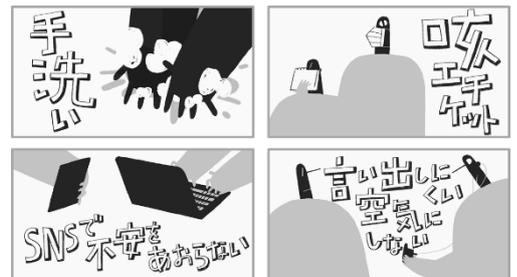
- ① “病気”そのものの感染症
- ② “不安”という気持ちの感染症
- ③ “差別・偏見”という意識の感染症

この3つの感染症が負のスパイラルとしてつながることで、さらなる感染拡大や、社会問題の深刻化へとつながっていきます。



Check 負のスパイラルを断ち切るためにできること

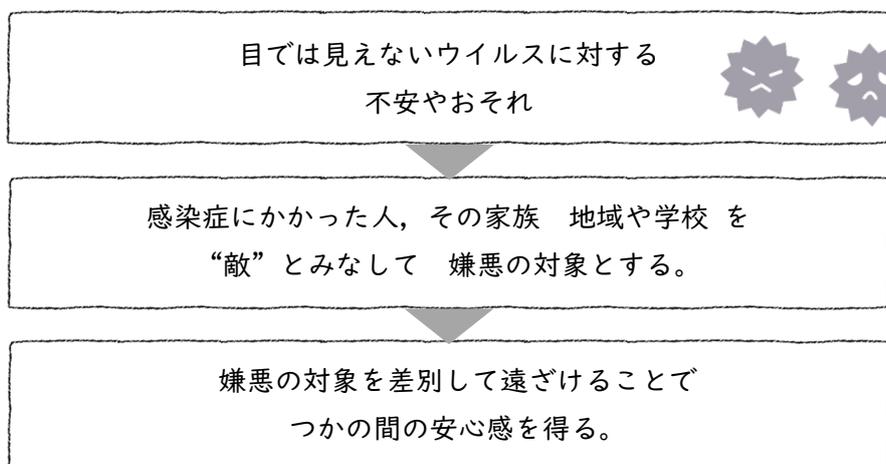
- ① ウイルスの感染をひろげないために…
まずは 手洗い・咳エチケットの徹底，3密を避け，
自分自身の感染症予防を徹底しておこなう。
- ② 不安にふりまわされないために…
情報源のはっきりしないうわさ話はしない・広げないこと
- ③ 差別や偏見をひろげないために…
言い出しにくい空気をつくらないこと



感染症から差別や偏見が生まれる理由

人は目に見えないウイルスに対する不安やおそれを，目に見えるものにすり替えます。

感染症にかかった人や，特定の地域・職業の人など，実際に目に見える感染症を連想させる人や場所などを避けたり遠ざけたりする気持ちや行動が「差別」や「偏見」につながっています。



新型コロナウイルスを含め，感染症は誰でもかかる可能性があります。

たたかうべき相手は人ではなくウイルスです。感染症への正しい理解と思いやりの心で不安な気持ちを乗り越えましょう。

*参考：新型コロナウイルス～差別・偏見をなくそうプロジェクト～